

プサン国際映画祭“Platform Busan 2017”参加報告

■Platform Busanについてと事前準備■

プサン国際映画祭の新たなプログラム「Platform Busan」が2017年スタートした。

Platform Busan(以下PB)は、プサン国際映画祭の顔で、急逝されたキム・ジソク氏の企画で、端的に言うと、アジアのインディーズ・フィルムメーカーたちが交流しネットワークを作る場を提供、ハブとして機能することが目的だ。彼の長年の願いであり、その意志を、キム・ヨンウ氏が中心となって受け継ぎ、実現の運びとなった。日本では、プサン国際映画祭のANDファンドのアドバイザーを長く務める藤岡朝子氏が中心となり、参加者をまとめることに。筆者は独立映画鍋の会員で、映画鍋運営MTGにも顔を出しており、また、前職が旅行会社でコンテンツに関係する海外展開や添乗員の経験もあったからか、お手伝いすることになった。PBは初開催のため混乱があることが予想され、また10月開催という映画祭が立て続けに実施される時期で、藤岡氏を筆頭に映画祭関係者は多忙を極めていた。そんな中、9月の事前準備にきっちり役割を果たせるか不安であった。実際、藤岡氏的意思決定に基づき指示があり、サポートしていくという、とても基本的で単純なものだった。結果的には、作業の進め方や相手側との交渉・提案の仕方、プサン国際映画祭側の新しい企画の進め方など、過程に立ち会えたことは貴重な機会であった。準備段階でのささいな混乱を挙げるとすれば、映画祭側から事前に知らされていたこと、特に参加者への特典が、直前で変わったことや、参加必須のプログラムに日本語通訳がつく予定が、全部にはつかなくなったことぐらいだった。また空港からの送迎もなくなった。この変更は参加申請後に知らされたので、初めての海外映画祭に参加、英語が苦手な者にとっては、不安にさせる要素になったに違いない。参加決定の大きな理由だったかもしれないと思うと残念だ。



PB参加の条件は、特になし。旅費は自己負担だが参加費もない。意志さえあれば誰でも参加できる。プサン映画祭の他のプログラムに比べればとても開かれている。(藤岡氏談) また、問い合わせの結果、リゾートホテルが特別価格で提供してもらえた。いずれも主催者のPBを成功させる気合が伝わってくる。参加者としての最初の難関をあえて大げさに書くとしたら、参加申請すると、PB担当からオンライン登録フォーム案内が、各自、英語で送られてくることだ。当日配布されるIDパス用の顔写真を登録したりするのだが、すべて英語だ。海外の映画祭なので最低限の英語コミュニケーションは仕方ない。また、映画鍋会員向けに、ミニ・オリエンテーションを開催した。藤岡氏がプサン国際映画祭の歴史とインディペンデント映画についての概論と、わかる範囲でのPBのプログラムの説明をし、土屋豊氏が映画鍋を代表して登壇するため語るべき内容は何なのかを問い、船橋敦氏からは「映画祭の活用方法」のヒントが語られた。また、現地の気候はどうか、現金はいくら換金したらいいのか等の実務的な話までいろいろ話し合われた。そして9月30日にはプログラムが発表された。(※別紙参照1) 参加必須のプログラムが5本。正式PB開催期間が10月15日から17日の3日間で、すべての開催プログラムは15本。そのうち三分之一は参加必須だが、参加者にとってそれほど負担がなく、フラストレーションのたまらない数だと言えた。(正確には開催期間前後に特別プログラムが設定されていた。それを入れると10月14日から18日の5日間でプログラム総数は17本) 参加必須プログラム以外の時間を使えば、映画を観たり、映画祭の他イベントに参加したり、他の国のフィルムメーカーたちと交流、観光にあてるには十分に確保できた。観光は訪れた土地の文化や歴史を知ることができるので、主催者側としても望んでいるはずで、とてもよい機会だと言える。最後にPB担当から英語で滞在に必要な情報が送られてきた。(※別紙参照2) 必要な現地情報でとても便利であり主催者の親切丁寧さがうかがえる。

■現地の様子■

10月14日夜にプサンに到着。ゲート内で換金をせずにゲート外に出てしまうと特に夜は空港内の銀行でもすべて閉まっております換金できないので注意が必要である。またタクシーの運転手は基本、英語ができないと思った方が無難である。ちなみにカード支払は可能。そしてホテルも観光地のリゾートホテル、ゲストハウス以外は、英語が通じない上、変換プラグも備えていない。困った時は、映画祭に来ている日本人に相談するといいい。映画祭の最新情報はもちろん、便利で役立つ生きた情報を教えてくれる。日本人に限らず知り合いがいたら、迷わず声をかけて情報交換することをお勧めする。限られた

時間で映画祭を有効活用するにはとても重要だ。もし知り合いになかなか出会えない場合は、映画祭本部であるBusan Cinema Centerのインフォメーションのスタッフがとても親切に教えてくれるだろう。またその近くにパソコンが自由に使える（英語と韓国語）エリアがあるので、ある程度、情報は拾える。PBパス（ID）を入手したら、一緒にもらった冊子でパスの権限を確認。映画祭はさまざまな種類のパスがある。自分のパスは、何が可能で何がダメなのか把握すると、スケジュールが一層立てやすくなる。また映画祭会場の地図を入手し、プログラム開催会場、映画館の場所、移動手段も確認しておくとおとあとおと便利だ。

10月14日、18時30分すぎ、PBプログラムが、中国出身、ジャ・ジャンクー監督のスペシャルトークで幕を開ける。会場は約200人収容の小さな特設会場で、これから約1週間、席をともにするアジア各国から参加したメンバーが座っている。PBの担当者であるキム・ヨンウ氏がマイクを持ってステージに現れ、挨拶が始まった。PBの目的、概要、誕生の経緯など話し、毎年続くことを目標にかかげていた。初年の今年は、26か国から169名が参加。好スタートを切ったようにうかがえる。いよいよ、ジャ・ジャンクーの登場だ。場内はやや興奮気味で拍手が起こっていた。プログラムタイトルは、フィルムメーカートーク「2017年のジャ・ジャンクー VS 1997年のジャ・ジャンクー」。1997年「一瞬の夢」のデビュー作から、この20年をふりかえるというもの。ファシリテーターと対談形式で進むものかと思いきや、本人が映画で何を撮ってきたかを、それぞれの作品をとりあげながら、その当時の中国の情勢・政治をふりかえり、撮影エピソードをおりませながら、自分の想いをひとりで語るというものだった。印象的だったのは、ドキュメンタリーを撮って、それを基盤にフィクションを作る、ということだ。熱気がさめやらぬうちに、スペシャルトークは終了した。

翌日15日は、PBプログラムが本格的に始まる。最初の参加必須プログラムは「Voice of Asia」だ。PBのプログラムの紹介と主な参加国のフィルムメーカーたちが登壇し、各国のインディーズフィルムの事情などパネルディスカッションをする。会場はAsian Film Marketが行



われているBEXCO Exhibition Center 2のイベントルーム。登壇者は、フィリピン、マレーシア、タイ、ベトナム、シンガポール、日本、インドで活躍のインディーズ・フィルムメーカーたちで、中にはプサン国際映画祭に非常に縁がある登壇者もいた。ホストは韓国独立映画協会・事務局長 Youngjae Goh氏が務めた。PBはキム・ジソク氏は、ネットワークだけでももっと広げればアジアのフィルムメーカーたちがより才能発揮できるとの思いでスタートした。それぞれ国の事情は違うが、登壇者の意見としては、「ネットワーキングがあれば、アーティストたちは協力しあい共存できる」「映画祭に来れば、自分と同じように孤独な作業をしてさびしい思いをしていた人にいっぱい出会え、とても励まされた」、「多くの人と出会って良い世界を作る、PBはまさにその機会を作る場になる」など、共存共栄の精神が重要であることが挙げられていた。日本からは、独立映画鍋の代表として土屋豊氏が登壇した。個人のフィルムメーカーとしてではないため、他の国とは違う立場ながら、日本でもPBのような活動があること、問題点と解決方法を探っている、という現状を話した。韓国はもちろん、他の国からも関心がわいたようだ。その他、各国のインディーズ映画をめぐる問題として「検閲」と「海賊版」が、大きく取り上げられていた。このプログラムからは、PBが今後どのように展開・発展していくのか、明確な指針はなく、主催者側が来年以降もPBを続かせるために、その答えを参加者と一緒に探っていきたいように受け取れた。各プログラム内容はレポートにまとめているので、詳細はレポートを参考にしてほしい。

■感想・意見■

最後に総論として、個人的ではあるが意見・感想をのべたい。各国の政治や経済状況、そして身の周りの環境が厳しいほうが、インディーズフィルムがより意味を成してくることを痛感した。独裁政治や弾圧に屈しない「叫び」が映画を作らせ、その映画は、人に伝えるツールとして使われている。映像を通じて真実や目の前にある問題を訴え続けるという姿勢を、特に、アジアのインディーズフィルムメーカーたちに強く感じた。その観点から言うと、日本はとても異質である。その良い例としてプログラム「Film Fund Talk」だ。映画祭のファンドについて担当者が紹介をする内容でロッテルダム、ベルリン、ドーハなど有名な映画祭が名を連ねた。そのどれもが、日本は経済的に豊かな国であるため、個々の日本のフィルムメーカーがたとえ経済的にまったく余裕がなくても日本人は応募の対象外になる。（ただフランスの機関はフランスとの共同製作であれば、日本も助成金の対象に入る）日本のインディーズフィルムの抱える問題は、

単純に個人に「お金がない」というレベルである一方、他のアジアのインディーズフィルムメーカーたちは単なる貧困とは違い「根本的な生きること」に対峙して映画を作っている。印象に残ったのは、最後のパーティで、PB参加者からのひと言だった。彼はいつも前列に座り、かならず質問をしていたためPB参加者とすぐに分かった。「Hi, Mr. question man. (どうも、質問マン)」と声をかけると彼は一瞬、何を言われているのか分からない顔をしたが、すぐに大きな声で笑った。だが、まじめな顔に変わり「僕の国、バングラデッシュは非常に貧しい国だ。今回、めったに出会えない映画人から直接話を聞いた。とても貴重な機会だったんだ」と。そして、人差し指を向けられ「Do question! (質問しろよ)」と言って立ち去った。むろん、ぐうの字も出なかった。改めて周りを見渡せば、国境など関係なく別々の国の個人同士が英語で話をして盛り上がっている。それと比べて、確かに、日本人は日本人だけで固まっている傾向はまだまだ強いのかも知れない。しかし、今回、想定外に日本人も積極的に英語で映画についてコミュニケーションをしていたようにうかがえる。映画祭は出会いの場である。そして出会いをきっかけに次につながる事が映画祭のメリットだ。平和であり経済的に豊かな国と言われている日本人が、今回の出会いや刺激をどう活かすかは当然の話で、今回は映画祭に参加する意義や根本的に映画を作る意味をより深く考えさせられたように思う。

(執筆：映画鍋会員 前田良子)

■その他参加者からの感想・意見■

- ・世界中から様々な立場の映画関係者と直接会って情報交換ができ、とても刺激的であった
- ・今後の方向性が疑問
- ・できたつながりを今後どう生かすかが問題
- ・参加者にやる気があり、英語を駆使し、頼らず積極的に動いていた
- ・そもそもネットワーク構築の目的は、「パートナー探し」、「Co-Producer」を見つけることだが、その役目はマーケットにある
- ・プサン国際映画祭はPBのようにプラットフォームがいっぱいありすぎる
- ・検閲や体制と闘いながらつくる映画をインディペンデント映画とする他のアジアの映画作家の意見を聞くと、日本におけるインディペンデント映画って何だろう

參考資料1 Platform Pusan Program

Date	일시	Program Title	프로그램타이틀	Time & Location	시간/장소	Duration	진행시간
Oct. 14 (SAT)	10월 14일(토)	Filmmaker's Talk: Jia Zhang Ke Jia Zhangke of 2017 vs Jia Zhangke of 1997 Simultaneous Interpretation : English, Korean, Chinese	필름메이커스토크:지아장케 2017년의 지아장케 vs 1997년의 지아장케 동시통역: 영어, 한국어, 중국어	18:40-20:00 Durerum Hall, Busan Cinema Center	18:40-20:00 영희의 집담 주피리움홀	80min	80분
		Voices of Asia* Simultaneous Interpretation : English, Korean, Japanese	보이스오브아시아* 동시통역: 영어, 한국어, 일본어	10:30 - 12:30 Event Room, BEXCO Exhibition Center 2	10:30 - 12:30 빅스코 제2전시장 이벤티룸	120min	120분
Oct. 15 (SUN)	10월 15일(일)	Incubating Asia - On the possibility of documentary co-production between Asian countries	인큐베이팅아시아 -아시아 지역 중심의 다규원하리 공동제작에 대하여	13:30 - 15:30 PB Lounge, BEXCO Exhibition Center 2	13:30 - 15:30 플랫폼부산라운지,빅스코제2전시장	120min	120분
		LARGE FORMAT in Cinema - Visual Tools in Storytelling Simultaneous Interpretation : English, Korean, Chinese	영화의 대형 포맷 -스토리텔링의 시각적 도구 동시통역: 영어, 한국어, 중국어	15:00 - 16:30 Grand Ballroom, Paradise Hotel	15:00 - 16:30 파라다이스호텔 대연회장	90min	90분
		Remembering Kim Jiseok	추모의밤	17:00-19:00 2F, Grand Ballroom, Haeundae Grand Hotel	17:00-19:00 해운대그랜드호텔 2층 그랜드볼룸		
		ARRI International Support Program * Simultaneous Interpretation: English, Korean	ARRI 국장기 워크숍* 동시통역: 영어, 한국어	10:30-11:30 Event Room, BEXCO Exhibition Center 2	10:30-11:30 빅스코 제2전시장 이벤티룸	60min	60분
Oct. 16 (MON)	10월 16일(월)	Small Talk: Korea and Japan Filmmakers' Talk Interpretation:Korean, Japanese	스몰토크:한-일영화인 토크 통역:한국어, 일본어	13:00-14:00 PB Lounge, BEXCO Exhibition Center 2	13:00-14:00 플랫폼부산라운지,빅스코제2전시장	60min	60분
		Asian Female Filmmakers' Talk Simultaneous Interpretation: English, Korean	아시아여성필름메이커스토크 동시통역:영어, 한국어	13:00-14:00 Durerum Hall, Busan Cinema Center	13:00-14:00 영희의 집담 주피리움홀	60min	60분
		Press Conference: Ten Years International Project Simultaneous Interpretation: English, Korean Consecutive Interpreting: Japanese	제작발표회 (십년) 인허내셔널 프로젝트 동시통역: 영어, 한국어 순차통역: 일본어	14:40 - 15:40 Durerum Hall, Busan Cinema Center	14:40 - 15:40 영희의 집담 주피리움홀	60min	60분
		Meet the guest: Talk to Talk with DOP Interpretation: English, Korean	아주담담: 촬영감독과의 대화 통역: 영어, 한국어	17:00-18:00 Durerum Hall, Busan Cinema Center	17:00-18:00 영희의 집담 주피리움홀	60min	60분
		Film Fund Talk * Simultaneous Interpretation : English, Korean, Japanese	필름펀드토크* 동시통역: 영어, 한국어, 일본어	10:30-12:00 Event Room, BEXCO Exhibition Center 2	10:30-12:00 빅스코 제2전시장 이벤티룸	90min	90분
Oct. 17 (TUE)	10월 17일(화)	Meet the Festival * Simultaneous Interpretation : English, Korean, Japanese	Meet the Festival * 동시통역: 영어, 한국어, 일본어	13:30-14:40 Event Room, BEXCO Exhibition Center 2	13:30-14:40 빅스코 제2전시장 이벤티룸	80min	80분
		Small Talk: Korea Regional Independent Film Association Networks	스몰토크: 한국 지역 독립영화 협회 네트워크	15:00-16:00 PB Lounge, BEXCO Exhibition Center 2	15:00-16:00 플랫폼부산라운지,빅스코제2전시장	60min	60분
		Meet the Filmmaker: Lav DIAZ * A case study of Lav Diaz's [The Season of the Devil (Ang Panatong ng Halimaw)] Simultaneous Interpretation : English, Korean, Japanese	필름메이커와의 만남: 라브 디아즈* 라브디아즈의 [사탄의 계절] 케이스 스터디 동시통역: 영어, 한국어, 일본어	16:00-17:30 Event Room, BEXCO Exhibition Center 2	16:00-17:30 빅스코 제2전시장 이벤티룸	90min	90분
		Platform BUSAN Closing Reception	플랫폼부산 종료장 모임	18:30-20:30 OKY GARDEN	18:30-20:30 스카이가든	120min	120분
		Filmmakers Night	필름메이커스나이트	22:00~ 24:00 Grand Hotel Emerald Hall	22:00~ 24:00 그랜드호텔에머랄드홀	120min	120분
		Talk with Producer : Jon Kuyper Simultaneous Interpretation : English, Korean	프로듀서토크:존카이펑 동시통역: 영어, 한국어	14:00 - 15:00 Durerum Hall, Busan Cinema Center	14:00 - 15:00 영희의 집담 주피리움홀	120min	120분
* Mandatory program for Platform Busan Participants			* 플랫폼부산 필수 참가 프로그램				

參考資料2 Platform Pusan Program



22nd **BUSAN** International Film Festival
12-21 October, 2017

GUEST GUIDE

Welcome to the 22nd Busan International Film Festival! Before you start your travel, we would like to provide you with some information to facilitate your trip and improve your stay. For more information, you are always welcome to contact the Guest desk.

Guest Service Team

BEFORE YOUR TRAVEL

KOREA STANDARD TIME (KST)

Korea is 9 hours ahead of Greenwich Mean Time (GMT+09:00).

CURRENCY

The unit of currency in Korea is the Korean Won (KRW). Notes occur in 1,000, 5,000, 10,000 and 50,000 won denominations, while coins occur in 10, 50, 100, and 500 won denominations. One U.S. dollar is roughly equivalent to 1,100 won. Please note that exchange rates fluctuate daily; it is recommended to check current rates before making any large transactions.

ELECTRICITY

The standard electricity supply in Korea is 220-volts AC/60 cycles. If you do not have a multi-voltage travel adapter, you can borrow one from your hotel's front desk. If you want to buy one in Korea, it is available at a duty-free shop or a convenience shop at the Airport. Always check the power supply before using your equipment.

ABOUT BUSAN CITY

Busan, a bustling city of approximately 3.6 million residents, is located on the southeastern tip of the Korean peninsula. Busan is the second largest city in Korea and it is currently the largest container handling port in the country and the fifth largest in the world. Busan is also known for its beautiful natural environment with harmonious view of mountains, rivers and sea.

WEATHER

Busan enjoys four distinct seasons and a temperate climate that never gets too hot or too cold. Being a port city, Busan is located near the sea. As the sea breeze can get quite chilly in the morning and evening, we recommend that you bring a windbreaker and a pullover for night walks.

*Average temperature in mid-October is around 13 ~ 18 °C (55-64 °F) and average rainfall is 12 ~ 21mm.

MOBILE PHONE

There are mobile services providers at the airports that offer mobile solutions to ensure you stay in touch during the festival period, without bearing expensive international mobile roaming charges. Check out the websites below in advance.

* Please e-mail us your Korean mobile phone number (guest@biff.kr)

Service Provider - SK Telecom / KT

Location - Incheon / Gimpo / Gimhae (Int'l Terminal only)

Website - www.skroaming.com/roamingkt.com

부산사무국 MAIN OFFICE

(부산) 40258 부산광역시 해운대구 수영강변대로 130 영화의전당 비포탈 3층
전화번호 1688-3010 팩스 051-709-2299

3rd Floor, BIFF HILL, Busan-Ginewa Center, 130 Seomyeonggongbi-ro 3-story, Haeundae-gu, Busan 40258, Korea
TEL: 82-1688-3010 FAX: 82-51-709-2299

서울사무국 SEOUL OFFICE

(서울) 03131 서울특별시 중구로 을지로 84 기동타워 1601호
전화번호 02-3675-9397 팩스 02-3675-9398

#1601, GARDEN TOWER, 84 Yulgok-ro, Jung-gu, Seoul 03131, Korea
TEL: 82-2-3675-9397 FAX: 82-2-3675-9398

GETTING TO BUSAN

Most of the festival guests arrive at Busan through Incheon, Gimpo and/or Gimhae International Airport. Depending on the airline and connection, you may be required to collect and re-check your baggage en route. Please confirm this when you check-in at the airport before your departure.

► Welcome to Korea!

INCHEON AIRPORT (ICN)

Incheon International Airport is the largest international airport in Korea where the most international flights land. This airport is about an hour away driving from the capital city Seoul and around 5 hours driving to Busan. Those transferring from Incheon (ICN) to Gimpo (GMP) to board a domestic flight to Gimhae (PUS) should find the BIFF INFO DESK near Gate 5 and festival staffs will guide you how to transfer.

GIMPO AIRPORT (GMP)

Gimpo International & Domestic Airport is the second largest airport in Korea where most domestic flights depart to Gimhae airport (Busan) or other cities. Once you arrive at Gimpo International Airport, you can just go straight to the designated gate to transfer to domestic flight to Gimhae (Busan). Those arriving at Incheon (ICN) and taking domestic flight at Gimpo (GMP) to Busan should find festival staffs near Gate 5 who will guide you (There is no INFO DESK in Gimpo airport).

GIMHAE AIRPORT (PUS)

Gimhae International Airport is located in Busan city. It is around 50 minutes driving from/to the main venue of BIFF. There are two terminals. Flights from Gimpo arrive at the domestic terminal and all other flights at the international terminal. Find the BIFF INFO DESK and you will be provided with transportation service to your hotel.

Gimhae Airport (Domestic Terminal) between Gate 1 and Gate 2

Gimhae Airport (International Terminal) between Gate 2 and Gate 3

► TRANSPORTATION FROM AIRPORT TO BIFF VENUES

1. Airport Limousine

Airport Limousine (to Haeundae)		
Operating Hours	06:50 ~ 22:20 (International & Domestic Terminal)	
Allocation time	25~30 min	
Fare	Adult 7000 KRW (approx. 6 USD)	
Board	International Terminal: Gate 3, Bus Stop 2	Domestic Terminal: Gate 4, Bus Stop 2
Route	Gimhae Airport(PUS) – HAEUNDAE CENTUM HOTEL – BEXCO – PARK HYATT BUSAN – HAEUNDAE GRAND HOTEL – Haeundae Beach – NOVOTEL AMBASSADOR BUSAN	

2. Taxi

Gimhae Int'l Airport – Centum City : Approx. 1hr (30,000 KRW)

*Travel time and fare may change depending on the traffic conditions.

3. Metro



Gimhae Int'l Airport Station – Centum City Station : 59 mins (2,000 KRW)

▶ BUSAN TRAIN STATION TO BIFF VENUE..

If you would like to take train to arrive in Busan, you can take KTX, High speed KTX connected between Seoul to Busan, please refer to the information below.

	First	Last	Duration of Journey	Fare [KRW]
Seoul – Busan	05:15	22:30	Approx. 2hrs 50min (Direct train between Seoul and Busan)	59,800 – 83,700 (Depending on seat)
Busan - Seoul	05:10	22:50		

	Departure	Arrival	Duration of Journey	Fare [KRW]
Busan Station - Incheon Airport	05:00	08:42	Approx. 3hrs 40min (Direct train between Incheon Airport and Busan)	72,100 – 100,900 (Depending on seat)
	08:10	11:42		
	12:00	15:40		
	14:20	17:47		
	16:25	19:58		

1. Taxi

Busan Train Station – Centum City : Approx. 40mins (18,000 KRW)

*Travel time and fare may change depending on the traffic conditions.

2. Metro



Busan Station – Centum City Station : 38 mins (1,500 KRW)

3. City Bus

1. No. 1001 : Busan Station – Jangsan Haeundae : 45mins (1,700 KRW)



2. No. 1003 : Busan Station – Haeundae Beach : 40mins (1,700 KRW)



ENJOY THE FESTIVAL

PICK UP YOUR BADGE

Collecting your badge would be the first thing to do before/after you check-in to your hotel. The Badge Desk is located on the 1F BIFF HILL, Busan Cinema Center.

Badge Desk Operating Hours

Date	Opening Hours
10-11 (Wed)	15:00 – 20:00
10-12 (Thu), 21 (Sat) / Opening, Closing day	9:00 – 15:00
10-13 (Fri) – 20(Fri)	8:30 – 20:00

*In the case of a lost badge, a new one can be issued for a fee of 10,000won.

FIND THE BIFF CENTER

At the BIFF Center located on the 1F BIFF HILL, Busan Cinema Center, you can:

- Receive your BADGE at the Badge Desk
- Book screening tickets at the Guest Ticket Box
- Receive festival information and schedule at Information Desk
- Find party invitations at the Mailbox (Invited guests only)
- Hold meetings with other guests
- Use free internet at PC zone
- Enjoy a cup of coffee at the Coffee Lounge (show your badge for free coffee)
- Try "VR Cinema in BIFF" at a VR theater located at BIFF center.

WATCH MOVIES

You have access to tickets for up to 4-5 different films a day depending on seat availability. Booking tickets is available on the day of the screening, and also for the following day.

FESTIVAL VENUES

The screening venues will be (1) Busan Cinema Center, (2) Lotte Cinema (Centum City), (3) CGV Centum City, (4) Sohyang Theatre Centum City, and (5) Megabox Jangsan Haeundae (Megabox Haeundae is no longer located at Haeundae station, changed location to Jangsan station in 2017). (Map on next page)

FESTIVAL SHUTTLE BUS

We provide shuttle bus service throughout the festival week, except opening and closing day. (Oct 12th & 21st)

There are two bus lines.

One is Ocean Line which goes around most of the BIFF venues along Haeundae Beach.

The other is Express line going directly from Busan Cinema Center to Megabox Jangsan Haeundae, and vice versa.

Time - 08:30 – 19:30: Departing from Busan Cinema Center (Every 20 min.)

The arrival of shuttle may take longer or be cancelled depending on the traffic or weather condition.

Last bus leaves at 19:30 from Busan Cinema Center.



We wish you the most pleasant stay in Korea and looking forward to seeing you soon in Busan

Platform Busan 2017 - Main Program - 【 10/15 Voice Of Asia 】

■プラットフォームプサンのプログラムと参加者の紹介、パネルディスカッション

パネラー： タイ Aditya Assarat / フィリピン Bianca Balbuena / ベトナム Phan Dang di /
日本 土屋豊 / シンガポール Boo Junfeng / マレーシア Pete Teo / インド Gargi KULKARNI / 韓国 Koh Young Jae (ホスト)

日時：10月15日 10:30～12:30

会場：BEXCO Exhibition Center 2 イベントホール

■レポート 担当：大原とき緒

PBのオープニング・プログラム。26カ国169名が参加。故キム・ジソク氏がアジアのインディペンデントのフィルムメーカーの交流を願って開催されたPB。パネラーのほとんどは、ジソク氏から構想を直接聞いて参加されていた。

1人ずつ、自国の映画製作状況等について、トーク。最終的に、この場で何かを決めて立ち上げていくというよりは、手探りのまま、次回に向けて、問題提起をした、ひとつの点を打ったことに意義があったという印象を持ちました。

共通の問題としてあがったのが、若い観客と若い監督の映画館離れとオンライン動画配信、配給、海賊版についてでした。また、監督に向けて、配給にも気を遣って欲しい、海外の映画祭に行きグローバル・スケールの視点を持ってほしいというリクエストもありました。国によって検閲の厳しい国もある。国内市場だけでは小さいとマレーシアのパネラーが言うと、フィリピンでは、自国の映画しか観ないと言う、韓国ではアジア映画が観られる機会がBIFF以外、ほとんどない、その様な状況で我々に何ができるのか？我々のネットワークだけで、配給を通さず、アジア映画を公開できないか？提案が続きます。

私自身、初めての国際映画祭だったのですが、プレスの多さ、会場の華やかさ、お金のかかり方に、驚きました。パネラー8名の内、2名が女性のプロデューサーで、男性は主に監督というのも興味深かったです。また、インディペンデントという言葉の意味について、あらためて考えさせられる貴重な機会でした。



Platform Busan 2017 - Main Program -

【10/15 LARGE FORMAT in Cinema - Visual Tools in Storytelling】

■映画における“ラージフォーマット” – “物語を語る”上での視覚ツール（ホスト：プサンフィルムコミッション）

トム・スターンは トーマス・エバンズ・スターンとして米国、カリフォルニア州、パロアルトに1946年12月16日に生まれる。彼の撮影作品は、「グラン・トリノ」（2008年）、「ミリオンダラー・ベイビー」（2004年）、「ハンガー・ゲーム」（2012年）で知られている。2008年より全米撮影監督協会（ASC）とThe Association of French Directors of Photography（AFC）のメンバーである。

日時：10月15日 15:00～16:30

会場：バラダイスホテル グランドボール・ルーム

■レポート 担当：上本 聡

普段自分は、演出と脚本をメインで仕事としており、撮影専門ではないので、知識的についていけるのだろうか、という一抹の不安を抱えてはいたのですが…。

クリント・イーストウッド監督の数々の作品で撮影監督をつとめているトム・スターン氏の話が聞ける機会ということもあり、参加しました。

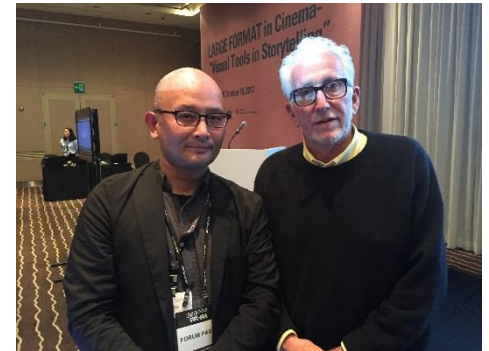
話自体はかなり専門性が高い部分もあったのですが、平易な英語で行われたので、英語に自信がなく撮影専門ではない自分にも、ある程度理解できる部分もあり、さまざまな話が聞けました。

また、若いアジアの映画人たちの参加が多く、講演終了後も積極的に登壇者と交流していました。

自分もスターン氏と、氏の参加した作品についてお話をさせていただく時間が持つことができました。つたない英語の質問にも丁寧に答えてくださったのが印象的でした。

●参加しての感想

ベテラン映画人と、若手映画人とが近い目線でシンポジウム後も、交流できる機会を持つことが印象的だったのと、アジアの若手映画人たちの積極的な姿勢が印象的でした。



Platform Busan 2017 - Main Program -

【 10/16 Introduction of ARRI International Support Program 】

■ARRIインターナショナル・サポートプログラム紹介

概要： グローバルで革新的なARRIグループは1917年から一流の才能を持つ人材が世界中で仕事をしています。インターナショナル・サポートプログラムは、決められたARRIパッケージで、ユニークな映画事業に対し積極的なサポートをするために始められました。

日時： 10月16日 10:30～11:30

会場： BEXCO Exhibition Center 2 イベントルーム

■レポート 担当：前田 良子

- ・ARRI社は、カメラシステム、照明、メディア、レンタル、医療、5部門から成っている
- ・メディア部門は、ヨーロッパとアメリカが中心
- ・アジアには、香港、北京、シドニーに支店がある

- International Support Programは、ユニークな映画プロジェクトに以下の部門で助成金を設けている
カメラ／照明／グリップ／ポストプロダクション／共同製作／海外セールス

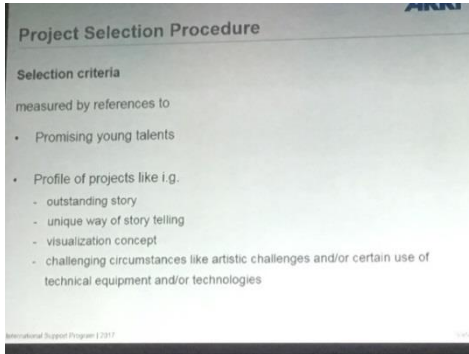
詳細（申請フォーム）：https://www.arri.com/corporate/international_support_program/

【申請の条件】

- 対象：若いフィルムメーカー（年齢制限なし）
- 長編映画、ドキュメンタリーが対象でテレビ番組、ショートフィルムは対象外
- プロデューサーのみ申請可能、書類はすべて英語で作成
- プロジェクト自体は、多言語でOK
- 製作予算規模は長編が50万～500万ドル、ドキュメンタリーは15万ドル以上のもの
- 予算の50%は独自に確保が必要
- 主な提出書類：シノプシス／トリートメント、脚本、監督とプロデューサーの履歴、キャストとスタッフの情報、作品の製作意図や芸術性、予算、資金計画、スケジュール（撮影、ポストプロダクション、公開について）

Platform Busan 2017 - Main Program -

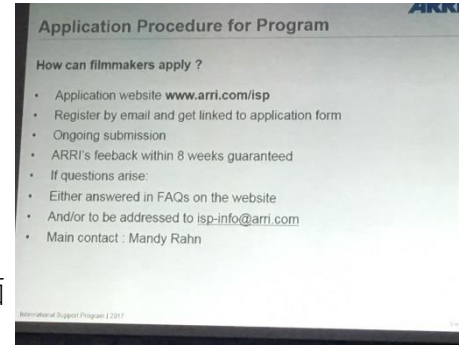
【 10/16 Introduction of ARRI International Support Program 】



審査のポイント
ー若い才能

ー好まれるプロジェクト例

- ・ 特異なストーリー
- ・ ユニークなストーリー展開
- ・ 映像化のコンセプト
- ・ チャレンジ精神 例：芸術面
技術面、技術的装置の使用



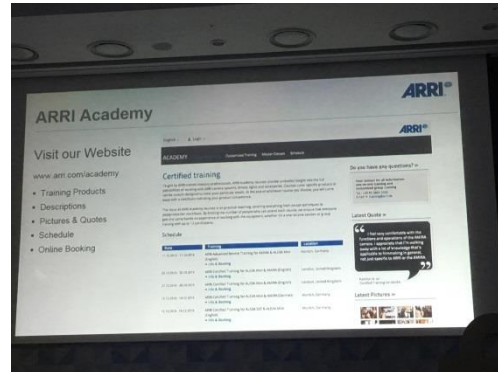
申請方法は？

- ・ サイトから(www.arri.com/isp)
- ・ メールで登録すれば
申請フォームへつながります
- ・ 申請受付中
- ・ 8週間以内に返事
- ・ 「よくある質問」はサイト参照
[個別の質問はisp-info@arri.com](mailto:isp-info@arri.com)
- ・ 担当：Mandy Rahn

●ARRI Academy

人材育成プログラムで世界各国でさまざまなトレーニング、ワークショップ、セミナーを開催。専門的な分野などニーズにあわせてコースを設置。特に実用的なコースに力を入れており、撮影現場に必要な技術からポストプロダクションまで一連の流れを網羅できる。また特殊装置の知識や操作、先端技術も修得可能。特にマスタークラスでは一流の現役技術者から指導を受けられる。

詳細：<http://www.arri.com/academy>



【主なコース】

- ・ Certified User Training
- ・ Advanced Service Training
- ・ Customized Training
- ・ Master Classes

※過去に日本でも東京でセミナーを開催
近日の予定はスケジュールを参照
<http://www.arri.com/academy/schedule/>

Platform Busan 2017 - Main Program - 【10/16 Meet the Guest: Talk to Talk with DOP】

■ゲストに会う：撮影監督たちによる対談

ゲスト：トゥーラジャ・マンソーリ（イラン） / アニエス・ゴダール（仏） / トム・スターン（米）
キム・ヒョング（韓国）
日時：10月16日 16:00～17:00
会場：Dureraum Hall

■レポート 担当：上本 聡

イラン、フランス、アメリカ、韓国の撮影監督たちが集った今回のシンポジウム。先立っての「映画における“ラージフォーマット”」で、自分の英語力でも、ある程度会話の内容が理解できたので参加させていただきました。

やはり話題に上ったのは、ゲストの皆さんが参加した各作品の監督の演出について…。自分の英語力では、60パーセントくらいしか言っている内容が理解できなかったのが悔やまれます。今後の英語力向上の重要性をひしひしと感じました。

総論として感じたのは、各監督が個性的な演出をされていて、その演出に対応するため、ゲストの皆さんが非常にフレキシブルなマインドを持っていることでした。それぞれの作品において撮影監督は映像のタッチを変え、自分の持つスキルや感覚を駆使して作品の「画」を作り上げていることを今さらですが痛感できました。

終演後に、トム・スターン氏に映画鍋の海外用英語版パンフレットを見せて、映画鍋について説明することができました。「興味あるからパンフレットが欲しい」と言ってくださったので、パンフレットをお渡しすることができました。

●参加しての感想

撮影監督からの視点で映画の演出について知ることができる、有意義なシンポジウムでした。



Platform Busan 2017 - Main Program -

【 10/17 Film Fund Talk 】

■“フィルムファンド・トーク”

世界中のプロデューサーに、最先端のフィルムファンドを紹介します。パネリストは、主要なフィルムファンドの決定権を握るメンバーで、プロジェクトごとの予算をカバーしながら、ファンドの活用の仕方やファンドによる様々なサポートについて、プレゼンします。フィルムファンド・トークは、プロデューサーが製作に必要なファイナンスやサポートの実用的な情報を提供します。

ファンディング・プログラム

- －エードシネマデュモンド (Aide aux cinémas du monde) / CNC
- －アジアシネマファンド/プサン国際映画祭
- －ドーハ・フィルム・インスティテュート
- －フーベルト・バルズ・ファンド/ ロッテルダム国際映画祭
- －プリンピクチャーズ (Purin Pictures)
- －Sørfond
- －ワールドシネマファンド / ベルリン国際映画祭

日時：10月17日 10:30～12:00

会場：BEXCO Exhibition Center 2 イベントホール



■レポート 担当：古川香月

人種や地域の文化を重視、強調、革新的なインディペンデント映画(フィクション、ドキュメンタリー、ファンドによってはアニメなど幅広いジャンルに)に支援したいというのが、それぞれの団体の共通点であるという印象を受けました。

今まで無かった型破りなアプローチ、感じたことのない程の物語の強さ、文化や人種のルーツをテーマにし、ファンド無しでは作ることが困難なインディペンデント映画を支援しますと登壇者が丁寧にスピーチ。参加者は熱心にメモを取ったり写真を撮ったりなどをして記録していた。

※日本は経済大国であるため単独では助成金対象外になります



Platform Busan 2017 - Main Program -

【 10/17 Meet the Festival 】

■映画祭の紹介

世界をリードする国際映画祭をアジアのインディーズフィルムメーカーたちに紹介

- カンヌ国際映画祭
- ロカルノ国際映画祭
- ロッテルダム国際映画祭

日時：10月17日 13:30~14:30

会場：BEXCO Exhibition Center 2* イベントホール



■レポート 担当：速水萌巴

カンヌ国際映画祭からはChristian Jeune氏、ロカルノ国際映画祭からは Carlo Chatrian氏、ロッテルダム国際映画祭からは Bero Beyer氏と、それぞれの映画祭のディレクターが登壇した。主に、映画祭の概要や特徴について語った。

質疑応答では参加者からの積極的な質問はなかった。静まる会場に司会者も「これがアジア式です」と苦笑い。ただ、ネットで開示している映画祭の概要を述べたあとの質疑応答だったので、参加者は質問をする脳になっていなかったように思う。審査基準や、どんな映画を好むのか、新人を発掘するためにどんなアプローチをしているのか等、質問はたくさんあるだろう。事前にPB管理側から質問募集があれば、参加者は質問をするという意識がもてるし、質問がないときには質問リストが役立つだろう。また英語力に不安のある日本人たちにとっては手助けになったかもしれない。

ある男性がChristian氏に質問を投げかけた。「あなたのメールアドレスを教えてくださいませんか？」笑いが溢れ、会場の雰囲気は和やかになった。その後、Christian氏には、ネット配信のみを対象とした映画がコンペティション対象外になった事例についての質問や、プラットフォームプサンのような試みをあなたたちの映画祭でも実施しないのか？という質問があがった。

トーク後は、ディレクターたちに挨拶をする参加者が目立った。ディレクターはみんな人柄がよく、朗らかに、参加者の話に耳を傾けた。実際に映画祭ディレクターと出会うことで、その映画祭の色が見えてくる。映画祭との出会いも相性だと感じた。「映画が完成したら、映画祭にこだわらず、とにかく出しなさいと」彼らは口を揃えてそう言っていた。

Platform Busan 2017 - Main Program -

【 10/17 Meet the Filmmaker: Lav DIAZ - A case study of Lav Diaz: The Season of the Devil 】

- 映画作家講演：ラヴ・ディアス –ラヴ・ディアスにみるケース・スタディ
：「The Season of the Devil (英語タイトル)」 (“Ang Panahon ng Halimaw (原題) ”)

概要 アーティストであるラヴ・ディアスの新作、「The Season of the Devil (英語タイトル)」、「Ang Panahon ng Halimaw (原題)」は、2018年で、最も期待されている映画のひとつです。ジャンルはミュージカルですが、アンチミュージカルであり、むしろロックオペラだと言われています。監督とプロデューサーが、プロジェクトのコンセプト、企画開発から、資金調達、制作、ポスト・プロダクションまで、制作の全行程と、直面した問題を語ります。作品のスニークプレビュー (内覧試写) もついています。

日時：10月17日 10:30~12:00

会場：BEXCO Exhibition Center 2 イベントホール

- レポート 担当：前田良子

- ・白黒映画に特化：フィリピン南部出身で、当時映像はすべて白黒だったため、なじみがあり好きである
- ・NYの新聞会社に勤めながら、稼いだお金でフィルム (1本尺10分で80ドル) を購入し映画を撮りはじめる
- ・監督として駆け出しの頃、ロッテルダム映画祭で助成金を獲得
→ 助成金800Eurは、フィリピンで3~4本の製作費に相当
- ・「北 (ノルテ) – 歴史の終わり」8時間の長編 (カンヌ映画祭「ある視点」部門出品)
 - 全く違うところに目を向ける = 表現のひとつで意味があり、自分の目で問うことが重要
 - スロー = 待つこと、観察すること。急ぐことで大事なものを逃す
 - 映画は世界に対するイメージであり、イメージの向こうを表現しなければならない
 - フィルムノワールがフィリピンの状況と一致
 - ファイナンス：システムに対抗する内容なのに企業が投資 (画期的)
※次ページへ続く



Platform Busan 2017 - Main Program -

【 10/17 Meet the Filmmaker: Lav DIAZ

- A case study of Lav Diaz: The Season of the Devil 】

- プロダクション：当時のフィリピンは新大統領がマルコスの支持者
警察政治に対抗する話、マレーシアで撮影
- 時間より空間 シーンに没頭でき、中毒性が高く、いつの間にか観終わっている
- ・新作「The Season of the Devil（英語タイトル）」について
 - 戒厳令、フィリピン独裁政治、ファシズム、の話でミュージカル仕立て
 - 音楽を対話にする(全17曲)
 - 8か月、マレーシアにてキャンプ
 - キャスト：フィリピンのディカプリオと言われる超有名俳優を起用
→マレーシアでの撮影のためファンに邪魔されることなく撮影
 - 1つのシーンをひとつの角度で撮る
→実際の状況と同じにしたい
- ・持論／特性
 - 配給なし、国際映画祭（トロント、ベルリンなど）に出品
 - プロダクションの規模によるが、基本、独りで作る
 - ロケーションがすべて
→うまく見つかればうまく進む（作りたい宇宙が作れる）
→状況にあわせて撮る
 - Visual Art = 映画
 - 映画が世界であり、映画が世界を変える「映画で世の中に介入したい」
 - 自分の生きている場所が重要。経験で問題を入れる
 - 生きることについての質問を続けたい
 - 映画は探究する道具（生きることについて考える）
 - ending(結論)が分からない／evidence(証拠)=Script(脚本)
 - フレームの向こう側が自然

Platform Busan 2017 - Small Talk -

【 10/15 Incubating Asia

- On the possibility of documentary co-production between Asian countries】

■ インキュベーション・アジア ―アジア間でのドキュメンタリー共同製作の可能性について

アジアのドキュメンタリーは、助成、助成の環境、支援策が不十分なため、ほとんどのアジアのドキュメンタリーフィルムメーカーたちは、欧米諸国かヨーロッパ、北米地域の主要なテレビ局から助成を求めています。しかし、アジアの国々は、社会的にも、政治的にも、文化的にも、歴史的にも共通することから、様々なことを共有できるため、もしアジア間での共同製作が機能すれば、プロジェクトをよりよく理解でき、インディペンデントフィルムメーカーたちは安定して制作に打ち込むことができるようになります。アジアのドキュメンタリーフィルムメーカーたちによるアジアでの共同製作についてミニ・ディスカッションを実施。

日時：10月15日 13:30～15:30

会場：BEXCO Exhibition Center 2 4D・4E・4F PBラウンジ

■ レポート 担当：奥間 勝也

登壇者 *名前失念* (フィンランド/プロデューサー)

Min Ji (韓国/監督)

名前失念 (プロデューサー/韓国)

Pailin Wedel (タイ/監督)、

Nova Goh (マレーシア/監督)

ファシリテーター Sona Jo (プロデューサー/韓国)

● フィンランドのPとMin Ji (韓国/監督)

この二人はプロデューサーと監督という立場でタッグを組んで実際に国際共同制作をした。

監督が撮影した映像だけを見て編集していた欧米のエディター。

監督の感覚と違ったので何度も話し合っていたが溝が埋まらなかった。

しかし、エディターがソウルに出向き実際に被写体の家族と会った。

そして映像以上のものを受け取り、その後の編集作業が一気に進んだ

→ 考え方は近いところがたくさんあるけど、

文化の違いが作業を難しくすることもあることを学んだ



Platform Busan 2017 - Small Talk -

【 10/15 Incubating Asia

- On the possibility of documentary co-production between Asian countries】

● *名前失念* (韓国／プロデューサー)

フィリピンと日本のco-proで完成までに4年かかった。

忍耐強くないといけない時期もあった。少しずつでも前に進めることが大事だと思った。

● Pailin Wedel (タイ／監督)

開発中のドキュメンタリーは初長編。

タイの仏教徒の科学者が2歳で死んだ自分の子どもの脳を最新テクノロジーで保存する話。

テクノロジーが「死」という概念をどう変えるか、がテーマ。

TVではスロットを求められるので、枠を開けてくれなかった。

海外でピッチングしてての感想は、外国ではタイほど「死」について語らないのかなと感じた。

作品も「重すぎないか」と良く言われる。

ピッチングは何度か回数を重ねると覚えてくれる。内容が深まるとより信頼を得られる。

メインの資金を得られると他のものも付きやすくなる。

自己資金がゼロだとプロデューサーに企画を乗っ取られる場合も。

※補足※ペイリンさんは11月上旬に行われたTokyo Docsで最優秀企画賞を受賞しました。

● Nova Goh (マレーシア／監督)

マレーシアにはFINASという規模の大きなファンドがある。

政府の機関で開発資金に5万ドル出すぐらい、大規模バジェットの企画に出資している。

Co-proもやっている。ちゃんとした会社を持つマレーシア人をパートナーにしないと応募できない。

配分はトータルバジェットのうち、母国：FINAS=6:4の割合

でも、今まで成立した例を1件も知らない。

● その他

タイでドキュメンタリー協会を作ろうとしている

韓国では3、4月にco-proの締め切りがあるので大体11月ぐらいからパートナー探しをはじめます。

「企画開発の時のファンド」と「仕上げ・完成の時のファンド」と使い分ける方法もある。

少額の出資もあるが、長期的な付き合いを予想してファンディングしてくれている人もいます。

Platform Busan 2017 - Small Talk -

【 10/16 Korea and Japan Filmmakers Talk: Japan & Korea's Standard Labor Contract in the Film Industry】

■韓国と日本のフィルムメーカー・トーク：日本と韓国の映画業界における労働環境について

日時：10月16日 13:00～14:00

会場：BEXCO Exhibition Center 2 4D・4E・4F PBラウンジ

■レポート 担当：前田 良子

概要:

日本映画産業の労働環境は、労働的にも、金銭的にも厳しい状況が続く。現に若者がすぐ辞めてしまい、人材が育たない問題が叫ばれ始めている。このままでは日本の映画産業、文化が衰退する事態が予想されるため、独立映画鍋では環境改善のためまずは実態調査の敢行が予定されている。そこで今回、Platform Busanから協力を得て韓国映画の労働環境の実態や取組の実績を参考にし、韓国独立映画協会とパネルディスカッションが行われた。

パネラー	韓国	韓国独立映画協会 事務局長 Youngjae Goh氏
		韓国独立映画協会 マネージャー Jiyeon Lee氏
		韓国製作者組合 代表 An Young Jin氏
	日本	独立映画鍋 代表理事 土屋豊氏
		独立映画鍋 労働実態調査担当 歌川達人氏

●韓国映画産業の現在の労働環境の状況について

- ・2000年、労働改善の声が上がり、徒弟システム（チームごとに契約）から組合を作り、個別に契約できるシステムに改善⇒法律発足
- ・「標準勤労契約」施行
 - 適用対象は製作規模10億W以上の作品に限定
 - 初年度、年収2000万Wが月収500万Wへ急激な賃上げ成功
 - 映画の法律のため条文として労働条件を適用しなければならない



Platform Busan 2017 - Small Talk -

【 10/16 Korea and Japan Filmmakers Talk: Japan & Korea's Standard Labor Contract in the Film Industry】

- 10億W以下の製作規模の作品は例外規定→組合では適用するよう要求、反面、製作状況が委縮
- ・「標準勤労契約」施行後の問題点
 - 人件費が上がることで柔軟性が低下
 - 雇用期間が短いがこなす量が同じ → スタッフ人数の増加が小幅

●韓国独立映画協会の動き

- ・独立映画祭を実施（1000本出品 内訳:長編160本／短編900本）
- ・製作費500万～3億Wで、作品ごとに状況はまちまちで労働条件を画一化できない
- ・労働組合と独立映画協会が労働環境についてセミナーを実施。結論は労働力を搾取できないが精神性は確認
 - 法を適用して最低賃金を確保したら、8000万円の予算が2億2千万円にはねあがった
 - デジタル化が発展し仲間だけで製作できるため、労働だと規定しにくい
 - 精神面：スタッフや仲間を共同製作者としてクレジットに入れる“分かち合いの精神”
- ・過去9年、政府から、戦争反対、労働の痛みの告白など扱った映画は排除されてきた → 文化産業の被害
- ・労働としての重要性：クリエイター、アーティストの福祉を考えるべき。教育を受ける権利と等しく、創作をする権利が必要
- ・標準勤労契約という基準ができるとう基準を超えない努力がでてくる → 労働に対する対価が生まれてくる

●まとめ

- ・日本は「標準勤労契約」さえない状況。実態調査を実施することで現実問題を喚起させたい。労働調査以外に手段はあるか？
- ・その答え「世論」を作る
 - 映画業界で連携し実態を告白するなどニュースのネタとして取り上げてもらう
 - 韓国映画界は思想の問題で弾圧されてきた→政府との長い闘争の歴史
- ・韓国と日本では歴史や状況が違う
- ・日本は60～70年で社会運動が失敗し、新しい運動はどうするかで止まっている

●課題

世論を作ること、しかし、どうやってその世論を作っていくのか

Platform Busan 2017 - Small Talk -

【 10/16 Asian Female Filmmakers' Talk Panel discussion with Asian Female Filmmakers】

■ アジアの女性フィルムメーカー・トーク

アジアの女性フィルムメーカーによるパネルディスカッション

日時：10月16日 13:00～14:00

会場：Dureraum Hall



■ レポート 担当：速水萌巴

いただいた登壇者のメモを捨ててしまったので正確には覚えていないが、韓国、タイ、フィリピン、マレーシアで活躍する5名の女性監督および女性プロデューサーが、ソファに座りテーブルを囲んでトークをするというスタイルで、とてもリラックスした雰囲気だった。プラットフォームプサンのプログラムのなかで、“参加している”という感覚を強くもてるプログラムのひとつだったと思う。というのも、登壇者と観客との間で頻繁に会話がなされていたからだ。観客のなかには登壇者の同僚もいて、その仲の良さがプログラム全体の雰囲気をあたたかいものにして盛り上げてくれたように思う。

参加者は圧倒的に男性が多かった。私も直前まで参加を悩んでいたが、お目当の映画のチケットが取れなかったため、同じ時間にやっていたこのプログラムに参加したのだ。そもそも、このプログラムのトーク内容が事前に開示されていなかったこともあるが、女性の参加者の少なさから、女性の女性に対する問題意識の低さを私は感じた。

どうして映画業界に女性が少ないのか、女性映画人に対する固定概念、現場でのセクシャルハラスメント、母親業との両立、社会からの偏見など話題は多岐に渡った。登壇者たちが意見を述べたあとに視聴者の男性も応えるなど積極的に意見交換がなされていた。

日本人の参加者は少なく、もちろん登壇者に日本人もいない。私も質問したいという瞬間があったものの英語に自信がないことで躊躇してしまった。国際的な場所で自分の意見や考えを主張できないこと、そもそも登壇者として日本人が選ばれないこと、自分自身が国際的な場所に参加したことで改めて日本人の壁、そして焦りと悔しさを感じた。

Platform Busan 2017 - Small Talk - 【10/17 Remembering Kim Jiseok】

■キム・ジソクプサン国際映画祭副監督の追悼式

日時:10月17日、17:00-19:00

会場： Haeundae Grand Hotel 2F, Grand Ballroom

■レポート 担当：山岡瑞子

10月15日、17時からヘウンデ・グランドホテルのグランドボールルームで、Remembering Kim Ji seok(キム・ジソクプサン国際映画祭エグゼクティブ・プログラマーの追悼式)が行われました。キム氏はBIFFをアジア最大の映画祭への成長に重要な役割を果たしたと言われている方で、5月のカンヌ映画祭の出張中に心臓発作で急逝され、今回、私たちが参加させて頂いたPlatform Busan-アジアにおいての独立映画製作者のワークショップを実現させたのも、キム氏の去年の提唱の成果でした。会場は、キム氏の生前の映画祭の参加者との写真の数々がプロジェクションされ、ゆかりのある監督や映画祭関係者が登壇し、キム氏との思い出や功績を語り、日本からは是枝裕和監督がご挨拶されていました。会場に訪れた全ての参加者に「Remembering Kim Ji seok」という、生前関わられた映画関係者からキム氏へのメッセージやプライベート写真満載の本が配られ、数々のコメントから、どれだけの映画人を支え、育て、心から尊敬されているかを知りました。キム氏が周りの皆さんから愛され、大切にされてきたことが伝わってきた、素晴らしい追悼式でした。

